

平成28年4月16日

平成28年度 日本小学生バレーボール連盟 審判規則委員会 運営基本方針

1 基本方針

- (1) バレーボールを通して、小学生の豊かな人間性の成長とバレーボール技術向上と小学生バレーボールの普及に努めるため、体罰・暴力・暴言を用いた指導を許さない。
- (2) 小学生バレーボールの在り方について共通理解を図り、新たな視点から競技規則を検討し、小学生のバレーボールに相応しい競技規則を策定していく。
- (3) 小学生の生命の安全を確保するとともに、災害発生時の対応と健康に十分配慮した試合運営を行う。
- (4) 指導者と審判員が互いの立場を尊重し、共通理解を図り、試合を進めることの大切さを理解する。
- (5) 若年層の人材発掘、若手審判員の育成に重点を置くとともに、国際大会、Vリーグで活躍できる審判員を育成し、その技術を小学生の審判に還元する。

2 具体的な方策

- (1) 審判員の立場から、審判講習会等の機会において、体罰・暴力・暴言が小学生の人間的な成長及び技術向上に一切不要であることを伝え、また、大会等において発見した場合は、隠ぺいせず適切な対応を取り、必ず報告する。
- (2) 試合や講習会において、チームの指導者や子どもに対して積極的にルールを理解を図り、正確にわかりやすく確実に伝えることで、相互の信頼関係を築いていく。
- (3) 全国大会、都道府県大会においてグリーンカードを適用し、子どもたちの健全育成に効果的な活用方法を伝え、広げていく。
- (4) 災害発生時の対応については、体育館において、コート上の子どもをはじめ、観客席など子どもや保護者も念頭に置き、地震発生を想定したマニュアルの作成と避難訓練を必ず実施する。
- (5) 三次講習会においてC級審判員資格を取得した指導者に対して、審判技術の向上のための研修会等に参加しやすくするため、研修会の情報を提供するとともに、積極的に指導者の審判資格所得を推進する。
- (6) JVAメンバー制度への参加を積極的に進め、小学生連盟所属審判員の国際大会、Vリーグ等への参加について、審判委員長は積極的に各都道府県協会に働き掛ける。
- (7) 審判資格保有者は、毎年、MRS登録を完了すること。

平成28年4月17日

県内小学生バレーボール関係各位

岐阜県小学生バレーボール連盟
審判委員長 大森 祥生

2016年度6人制競技規則の改正・修正点

平成28年度ルールの主な改正・修正点に関して、日本小学生バレーボール連盟の取扱いに準じて、下記のとおり取り扱うこととします。

記

1. 規則の名称変更

・付録(2) **新) 小学生バレーボール競技規則**

旧) 小学生バレーボール・フリーポジション制競技規則

2. テクニカルタイムアウトについて

・付則1 **新) 選手の健康と安全に配慮して、テクニカルタイムアウトは、給水のためのタイムアウトとして適用し、選手に給水をさせなければならない。**

旧) 特に5月から10月までの間に開催する大会では、 を削除

これまで同様、年中ととしてテクニカルタイムアウト中、ベンチスタッフや主審・副審は選手の前に給水ボトルの籠などを置き、給水できる状態をつくることを第一優先とし、ベンチスタッフは選手の状態を把握して、不調を訴える選手がいないか選手の健康と安全に配慮すること。そのうえで、選手に指示を与えることは制限しない。モップをかける選手がいても「選手の安全に配慮する」意味で制限しないが、モップをかけ終わったときに給水するよう、積極的に促すこと。あわせて主審・副審は審判団(ラインジャッジなど)の選手にも給水させるとともに、健康状態に配慮する。

3. ユニフォームについて

・付則2 **新) 袖のないユニフォームは、選手の安全性を考慮し禁止とする**

ノースリーブのユニフォームは禁止とし、子どもたちを「盗撮」などの犯罪者から守る。フレンチタイプは袖有りとして認める。シャツは半袖/長袖が混在してもよい、ただしデザインが同じであること。なお、冬季暖房設備の無い体育館では、選手の健康を考慮し、チームで統一されたアンダーウェアなどを着用できることとし、アンダーウェアが見えても構わない。このことは大会要項に明記する。また、ユニフォームのシャツの裾は、そのタイプを問わず、必ずパンツの中に入れること。

4. ルールの取扱いの変更点

(1) 試合後の監督との握手について

監督は、試合終了後、主審・副審にフェアプレーの精神で「握手」を交わす。

ゲーム終了時の握手は、一般6人制は監督から来なければ握手しないが、小学生では子どもたちにフェアプレーを教える趣旨で(子どもたちも見ているので)監督が握手に来ない場合は、審判から握手をしに行く。ゲーム後に握手する習慣を今後定着させていく。

(2) スターティングラインアップ

セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上に居り、監督がその選手をコートに残すことを要望する場合

両チームのサーバー順を確認し終える前であっても、その場で監督のハンドシグナルを以て要求を受け、選手交代手続きを行う。ラインアップシート通りにコート内の選手を一旦戻す必要はない。この時コート内の選手には片手を挙げさせる。

監督がラインアップシートどおりの選手とすることを要望する場合は、その場で選手を入れ替えさせるが、この場合に制裁はない。

(3) タッチネットの反則

アタックやブロックの助走も含んだ動作の開始から、着地の動作の終了(安定する)までを一連の動きとする。明らかに離れた位置にトスが上がった場合の接触は反則ではない。着地の動作が完了した後、ボールが近くにない場合の振り向き時の接触は反則ではない。

髪の毛がネットに触れた場合、ボールをプレーする相手に影響を与えたことが明らかな時のみ反則とする。なお髪の毛がネットに絡まって外れなくなっている場合も反則とする。

(4) 教育的指導の適用

軽度の不法な行為への処置段階で、小学生はステージ1の前に「教育的指導」を導入しており両チームのゲームキャプテンを呼んで注意を与えるが、Aチームが犯した行為に「教育的指導」を与えた後、Bチームが同じ行為を行った場合ステージ1とはせず、Bチームに対する「教育的指導」を両チームのゲームキャプテンを呼んで行う。つまりA/Bそれぞれに、ステージ1の前段階を設けるよう平等に取り扱う。子どもたちにいけない事を教えることを趣旨とし、相手チームが注意されたことを理解できていなかったのだから、改めて教えてあげる。

(5) 靴ひもがほどけている場合

靴ひもを結ぶため、主審に結ぶ時間を要求する行為は、遅延の警告となることから、これまでは見ても見ぬふり(無視する)よう扱ってきたが、今後は自然な対応をしてあげることとする。声をかけてあげたり、結び終わるのを確認してからサービス許可の吹笛を行う。子ども達の怪我の予防・安全を優先させる。

(6) 主審と副審のハンドシグナル

タイムアウトや選手交代の要求を副審が受付けてホイッスルし、ハンドシグナルを示した場合は、主審はハンドシグナルを示す必要はない。

以上